非平衡定常流下での南部・ゴールドストーンモード

ポスター発表日:26日、ポスター番号:38

南 佑樹 (浙江大)

共著者:中野裕義(京大理)、日高義将(KEK)

南部・ゴールドストーンの定理

Goldstone (1961), Nambu, Jona-Lasinio (1961), Goldstone, Salam, Weinberg (1962)

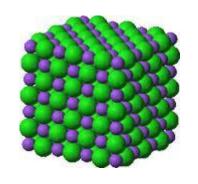
大域的な連続対称性が自発的に破れる



ギャップレスモード(南部・ゴールドストーンモード)

分散関係: $\omega(k) \to 0$ at $k \to 0$

固体:フォノン 磁性体:スピン波 真空:パイ中間子







ハミルトン系でのNGモード

例:磁性体におけるスピン波

強磁性体

↑↑↑↑↑↑↑↑
$$\omega(k) \propto k^2$$
:2乗分散

反強磁性体

↓↑↓↑↓↑↓↑↓
$$\omega(k) \propto |k|$$
:線形分散

分散関係が異なる

二つのタイプに分類できる

Watanabe - Murayama, PRL(2012), Hidaka, PRL(2012)

内部対称性の自発的破れの場合

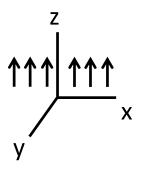
Type A:
$$\langle [Q^{\alpha}, Q^{\beta}] \rangle = 0 \rightarrow \omega(\mathbf{k}) \propto |\mathbf{k}|$$

Type B:
$$\langle [Q^{\alpha}, Q^{\beta}] \rangle \neq 0 \rightarrow \omega(\mathbf{k}) \propto \mathbf{k}^2$$

 $Q^{lpha,eta}$:破れた対称性の生成子

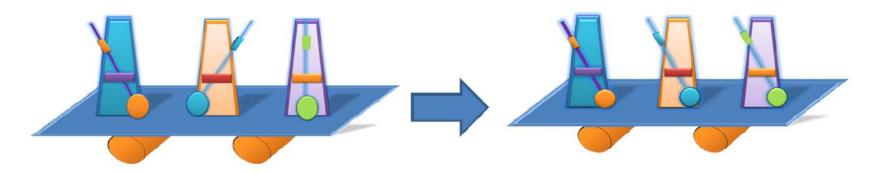
cf. 磁性体の場合

$$\langle [M^x, M^y] \rangle = i \langle M^z \rangle = 0 \text{ or } \neq 0$$
 $M^i : \vdash \neg$ タルスピンのi成分

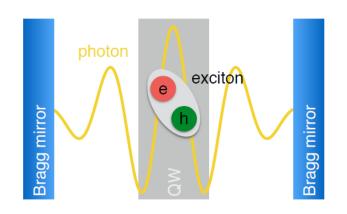


非平衡開放系での自発的対称性の破れ

・振動子集団の同期転移 → U(1)対称性の破れ Y. Kuramoto (1975).



励起子ポラリトンのBEC



Polariton = exiciton + cavity photon

Driven by laser and dissipation by photon emmition

非平衡開放系でのNGモード

開放系のU(1)対称性の破れに伴うNGモード Y. Kuramoto (1975).

M. Szymańska, J. Keeling, and P. Littlewood, Physical review letters 96, 230602 (2006).

$$\omega(k) \propto -ik^2$$
:拡散モード

ハミルトン系のtype-A,-Bに属さない



開放系の内部対称性の破れに伴うNGモード→4つのタイプに分類

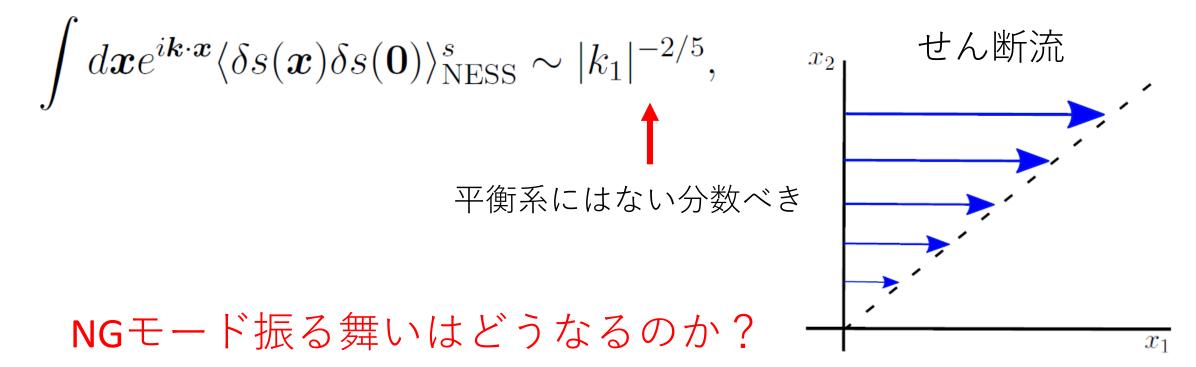
Hidaka and Minami, PTEP (2019)

→ 非平衡定常流がある場合は考えていない

非平衡定常流がある系ではどうなるのか?

例:せん断流下での臨界流体の空間相関

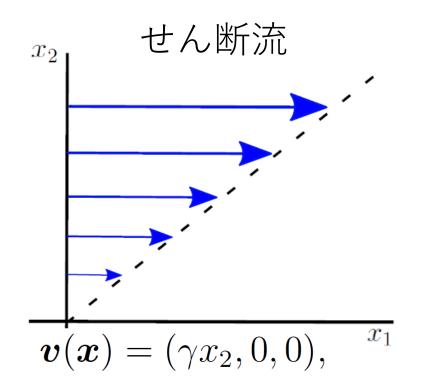
A. Onuki and K. Kawasaki, Annals of Physics 121, 456 (1979)

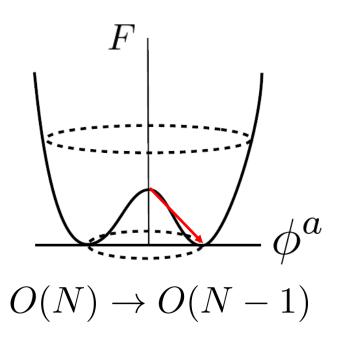


せん断流下でのO(N)スカラー模型

運動方程式

運動方程式
$$\partial_t \phi^a + \nabla \cdot \left(\boldsymbol{v} \phi^a \right) = -\Gamma \frac{\delta F}{\delta \phi^a} + \eta^a,$$
 N成分実スカラー場 非平衡定常流 ランダムノイズ





NGモードの運動方程式

鞍点からの揺らぎ: $\phi^a(t, \boldsymbol{x}) = (\phi_0 + \sigma(t, \boldsymbol{x}), \pi^b(t, \boldsymbol{x}))$

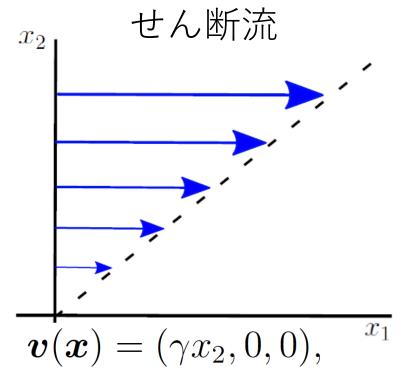
 X_2 以外フーリエ変換した式

$$\left(-\frac{\partial^2}{\partial X_2^2} + iK_1X_2 - i\Omega + K_1^2 + K_3^2\right)\pi^b(X_2, K_1, \Omega) = \zeta^b(X_2, K_1, \Omega),$$

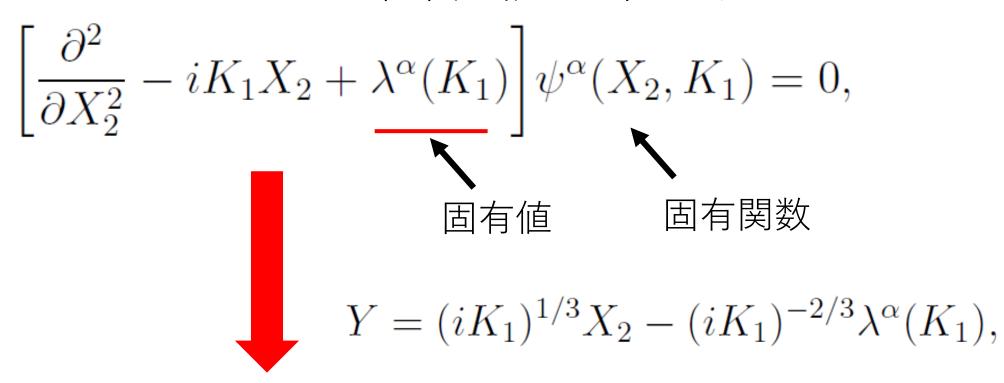
平面波では対角表示できない

無次元化した変数:

$$\boldsymbol{X} = \sqrt{\frac{\gamma}{\Gamma}} \boldsymbol{x}, \quad \boldsymbol{K} = \sqrt{\frac{\Gamma}{\gamma}} \boldsymbol{k}, \quad \Omega = \frac{1}{\gamma} \omega.$$



X2方向の固有値方程式



エアリ方程式に帰着する

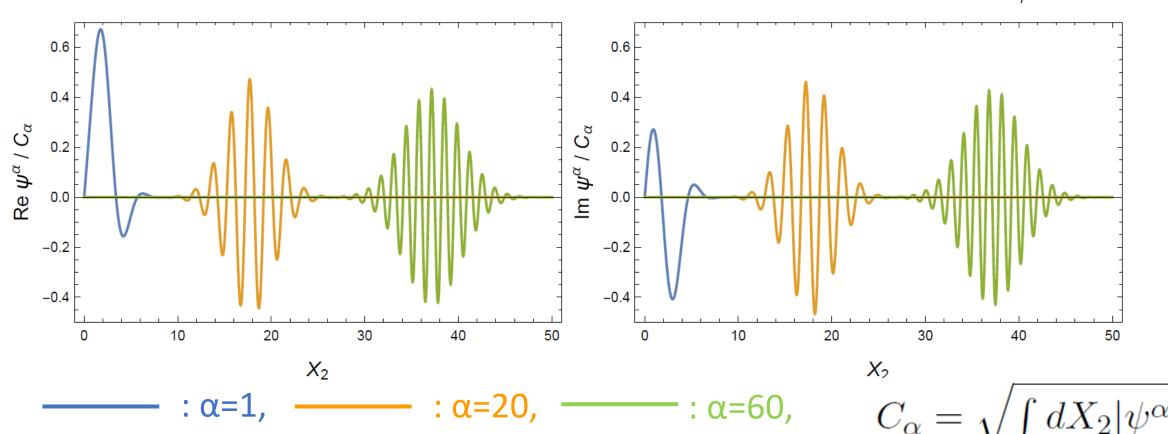
$$\left(\frac{\partial^2}{\partial Y^2} - Y\right)\psi^{\alpha}(Y) = 0.$$

X_2 方向の固有値と固有関数

 $\lambda^{\alpha}(K_1) = (iK_1)^{2/3}\underline{x_0^{\alpha}}, \leftarrow$ エアリ関数の α 番目のゼロ点

$$\psi^{\alpha}(X_2, K_1) = \mathcal{N}^{\alpha}(K_1) \underline{\text{Ai}((iK_1)^{1/3}X_2 - x_0^{\alpha})}, \leftarrow$$
エアリ関数

境界条件: $X_2=0,\infty$ で $\psi^{\alpha}=0$



せん断流下でのNGモード

分散関係

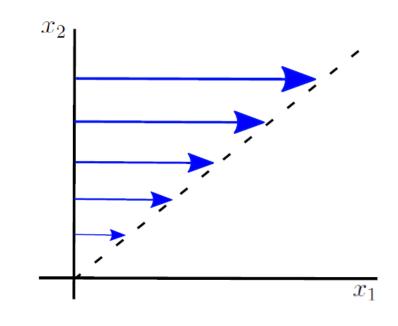
$$\Omega = \lambda^{\alpha}(K_1) - i(K_1^2 + K_3^2),$$

$$= e^{\pm i\pi/6} x_0^{\alpha} |K_1|^{2/3} - i(K_1^2 + K_3^2),$$
平衡系にはない分数べき

 x_0^lpha が励起していてもギャップレス

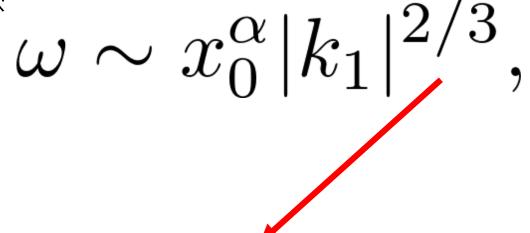
$$\Omega \to 0$$
 at $K_1, K_3 \to 0$

→ ギャップレスモードが無限個



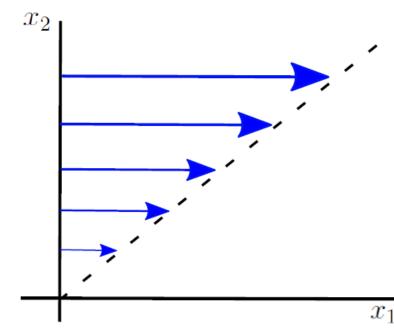
2次元系での長距離秩序の出現

分散関係



この分数べきから1+2次元系で 赤外発散が抑えられることが示唆される。

1+2次元系での長距離秩序の出現(25日の中野さんのポスター)



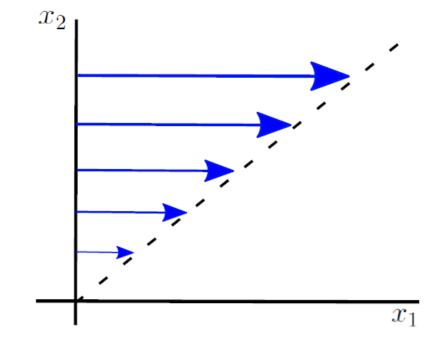
まとめ

・トイモデルでせん断流下でのNGモードの振る舞いを解析

・平衡系にはない分数べきのモードが無限個現れる

$$\omega \sim x_0^{\alpha} |k_1|^{2/3},$$

・せん断流下では2次元での赤外発散が 抑えられることが示唆される



今後の展望

・より現実的な系の解析 せん断をかけた液晶、磁性流体など

• 温度勾配がある系ではどうなるのか?

• 非平衡定常流がある系での南部・ゴールドストーンの定理